

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R2~R6)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
① 平和学習の推進	平和学習到達度 「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったか」という問いに対し、「役立った」/全回答(選択肢は、「役立った」「役立ったがもう少し工夫・改善があればなお良い」「あまり役立たなかった」「役立たなかった」)		%	10	90.8	85	93.4	↓ 90.0	10	85.0	85	平和学習施設としての役割を果たすという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基に、過去の実績を踏まえて設定する。	・教員向けアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握
② ピースおおさかの利用促進	入館者数		人	15	28,088	28,600	35,163	35,800	15	71,600	72,000	少子化等を踏まえ設定した中期経営計画の目標値を基礎に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・企画事業の充実 ・日本平和博物館会議やユニセフ・ユネスコ等外部団体との連携 ・会議室活用の誘致 ・新作アニメ映画の作成 ・学校の来館時期の分散化への取り組み
③ 館外の利用促進	貸出資料利用件数		件	10	237	248	253	269	10	384	390	館外の利用促進を図るという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・来館が困難な学校に向けたPRの実施 ・貸出資料を増やして対応
	出かける展示		回	10	7	8	8	9	10	12	12	館外の利用促進を図るという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・展示先の確保 ・展示内容の充実

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄附金収入		千円	15	619	636	1,250	↓ 693	15	1,155	1,155	貴重な自主財源としての寄附金について、広く募集を呼びかけるという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和3年度の収入内訳(※)を考慮した上で今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。 ※令和3年度は開館30周年記念事業を実施し、その事業に係る寄附金が587千円集まった。 令和4年度は同様の寄附金の見込みがないことから、上記金額を除いた663千円を令和3年度の実績値と考え、令和4年度の目標を設定。	・企画事業等での広い寄附の呼びかけ ・税の優遇措置のPRの継続
⑤ 運営コストの抑制	入館者1人当たりの事業費 (「一般会計」支出合計(事業活動支出額)/入館者数)		円	10	3,198	3,161	2,551	2,514	10	1,260	1,250	効率的な運営を図るという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・目標入館者数の達成 ・運営コスト抑制の取組みの継続

【凡例】

- ・☆はR4年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値	R4年度の目標値
平和学習到達度	%	93.4	90.0

マイナス
（現状維持）
目標の考え方

平和学習到達度は、来館のあった小中学校の代表教員に対するアンケートにより算出しており、リアルな実物展示や映像、定時映画の上映、ワークシートの提供等で概ね高評価を受けている。しかしながら、アンケートによるニーズに出来る限りの対応はしつつも、来館時期が集中することによる混雑が不可避であることや展示内容についての様々な考え方、施設面の制約等での限界もあり、年度毎により実績値は変動するものである。

本指標は、令和2年度から策定した中期経営計画において新たに設定した目標項目（毎年85%以上を維持）であり、2年間の実績を踏まえ、令和4年度からは毎年維持すべき目標値を「90%」とする。

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値	R4年度の目標値
平和寄附金収入	千円	1,250	693

マイナス
（現状維持）
目標の考え方

令和3年度の寄附金収入については、令和3年9月でピースおおさかが開館30周年を迎え、その記念事業として、10年ぶりに「刻の庭」の銘板に大阪空襲死没者の方のお名前を刻む事業を実施。

当日は遺族の方も招き事業を実施し、広く新聞やテレビでも取り上げられたことにより、遺族の方等から、今後の銘板の改修工事や名簿管理の維持などに関する寄附金として約587千円が集まったところである。

しかしながら、この寄附金は「刻の庭」の10年ぶりの銘板追加事業に係る一過性のものであり、令和4年度以降に同様の寄附を見込むことができない。また、令和2年から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により現在の社会・経済活動が制限されている中では、通常の寄附の大幅な伸びも令和4年度以降見込むことは非常に厳しいことから、令和4年度の寄附金収入については、令和3年度の寄附金収入（1250千円）から587千円を除いた663千円を基に、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して令和4年度の目標額を設定する。